自主協販産業委に付託

教育委員 秘密会で任命同意

（一面から）

諸戸助役 小出し小出しでお叱りをうけたが、途中から必要が生じた、先日の立木公売の結果、当初より石数も余計で増収となった、当初予定の立木収入は一千九百十八万円だったので残りの七百万円は斗枝としている

日裏議員 追加予算のたびに滞納繰越を出しているが、これだけあるとザックバランに話すべきで、議会を小馬鹿にしている感じがするし、無定見、無計画では困る

大槻議員 不正常解消のために全力を注いで起債獲得に近進して頂きたい

川上町長 起債がハツキリすれば用意はできている、起債が内定し設計をして予算化することになるが時期的に遅れては工事ができなくなるので、いつでも設計にかかれるようにしている

ここで追加予算案を議決。ついで町立病院の設置および管理に関する条例の全文改正案を上程、これは厚生省告示の診療報酬点数表についで「乙の二」を採用しようとするもので原案どおり議決。道々永久橋架橋事業費一部負担については、上別別橋一千万円に対して十八万円、第二利別橋五千万円に対して六十五万円の計八十三万円を負担するのだが、内四十三万円は明年度に支出しようとするもので、これを議決。立木特売処分については、ラワン中学校の新小屋十二坪を建築するために町有林立木十五石以内を同校PTAに無償で処分しようとするもので、これも議決。国有林野産物買受については、学校用薪材としてつぎのように各営林署から買受けようというもので、これを議決

本別営林署
喜登牛小中三五〇石
上茸登小　一八〇石
加丘小　一二〇石
足寄営林署
茨足寄小　一二〇石
ラワン小中五五〇石
上ラワン小中三五〇石
上稲牛小　一〇〇石
塩土見小　一二〇石
中足寄小中二〇〇石
鳥取小　一〇〇石
稲牛小中　二〇〇石
上足寄小中一六〇石

さいごに教育委員任命同意について、白紙議案のまま、上程、川上町長から秘密会を要求したため非公開で審議、一昨年の公選の際立候補したが辞退した藤村与作氏をこの際任命したいということで、これに同意した。

ついで議員協議会をひらき、自主協同販売について協議、これまで推進協議会の活動に関して町議会に相談をかけなかった点を蓑島議員から高橋議長に対して陳謝したあと、この運動については産業委員会に付託することにし、諸戸助役からジープ消防車の補助・起債は本年度新規に購入しなければ認められないのでこんご検討してゆくが補助・起債を流す方向にあり、多田議員から新庁舎移転にともない前年行政書士事務所から新庁舎内に出張事務を認めてほしいという申出があり、一般議員からそれは考えものだという声が多かったが結局理事者の考え方次第ということになり、午後三時五十分閉会。

岡崎氏、立起の態勢へ

岡崎光三氏を明春の選挙候補にという動きが活発となり、おそらく同氏も周囲の情勢から出馬に踏みきらざるを得ないのではないかとみられている。

この問題についての自民党足寄支部と本別支部の合同役員会議は、特に岡崎支部長宅で三日におこなわれて〝腰づめ談判〟という格好となり、本別側が予想以上の熟心さで立起を促していた模様で、たとえ本別から水元彦夫氏が起つても、自民党支部としては四百党員から三千五百票は本別で確保するという意気込みを示しているといわれ、足寄支部としてはこの機会を逃してはここ八年や十年は足寄から選挙をおくることができないという見地から、極力、岡崎氏の出馬に向つて努力をつづけているようだ。

三十日の町議会閉会後有志議員二十名によつてこの問題が検討されたが、共産党の矢野議員すら地元から起つことには賛意を示し、大半の議員はこのための発起人になることを承諾しており、自民党支部としては近く町議会有志・農業団体・商工会など各種団体の代表者を発起人にして町民大会式な政治力結集の会をひらいて、岡崎氏擁立の気勢をあげることにしている。

自主協同販売体制に踏み切つた理由

全町民に訴える

自由経済機構の下に於ける生産販売の自由競争はその価格体型の上にあいでも需要と供給の調節を図る役割を演じ作り円滑な取引が行わる、ことは望ましいことであり生産者も消費者もその正常な発達に対し異存はないと思う、然るに我が国内の食糧物資の需給関係は依然として生産量が需要の絶対量に遠しないため、その不足量を海外輸入に俟つているが国民の主食糧である米麦については価格設定も政府の補償下に置かれ特に米にありては配給も統制実施中で、この生産販売共に安定して居るが、他の雑穀澱粉については一部需低価格補償制度（麦・大豆・澱粉・菜種等）は実施されて居るが国内需要の絶対量が不足するため年間相当量の輸入が行われ、それらの価格と競合して国内産農産物価格は常に不安定である、加えて本道畑作農業は五年中四カ年の冷害凶作に遭遇し昭和三十年の如き豊作時にも販売価格暴落のため凶作に背負い込んだ借金を返せぬばかりか結果的には豊作貧乏という異常経済に未だ至営の上塗りを余儀なくされた、その度に生産農民は本道農業の危機を叫んで中央政府や国会にムシロ旗を押し立てて救農対策を要請し政府の誠意を受けて辛うじて再生産を続けて来たが、今や十勝の二万二千戸の農民は総額九十億円に達する負債をつくり平年作といえども至営費を差引くと借金の利息さえ完全に拂えない農家はその大半であるといわれている。

かかる状態から農民のうち上層農家と下層農家との階層分化が年々甚だしくなり至営不振よりやがて離落し行く農家は年々深刻の度を加えている、これが対策は今までにも種々唱えられ指導されてはきたことであるが、単なる生産増強方式や生活改善運動をもつてしてはこの深刻な農家至済の不振を立直すには氷山の一角といつた感があるのである、といつて借りた金を返さないでよいということにはならない。

本年の本道農家が、春以来の順調な気象に恵まれ豊作を予想せらるるに当り内心では出来秋の価格が、またそろそろ昭和三十年のような暴落を来しはせぬだろうか、実りの秋の近づくにつれて暗い半面に包まれているのが実状ではあるまいかこのことを何とかして今までよりも変化させないで今年の上作を機会に年々借金も減らし増産に励むならやがて正常な安定した農業経営ができるような方途がないものだろうかと関係者が一丸となつて検討し打出した案が、北海道農民が生産費を償い再生産費を挿い得るような価格で消費者の納得のゆく取引で売つてゆく以外に自立経済の道は外に求め得られないという結論を得たのである、この方法を実行するには全生産農民の全市の一致協力と流通機構の改善と政府当局の国内需給調整の強力な支持がなくては念願達成は難しいのである。

（つづく）

足寄町自主協販推進協議会　委員　近藤悦朗

○…足寄神社の秋祭りをふり返つてみて何か物足りないものがある―市街周辺をあげての盛りあがりに欠けている―それには本格的な〝みこし〟の渡御が必要だ―というところからか、石川未亡人がこのほど氏子総代に対して本御輿の奉納を申出たそうだ。

○…おそらく二百万円か三百万円はしようという大物だけに来年のお祭りはシンの入つたものになろう。こんごは各区が当番制で祭典に協力するようにしていつて、年に一度のお祭りをより楽しく盛大にという気風をつくりあげてゆきたいものだ。

建築材その他
特に勉強販売中
（期間中原価にて奉仕）
㊏ 高橋木工場
足寄市街北区　T三〇五

お買物は
サービス本位の
食料品
雑貨
菓子
たばこ
㊌ 加藤商店へ
足寄市街南区
T212

日本劇場―足寄劇場

5	季節風の彼方に	殺さま弥次郎多
6	蟹談道中	
7	温中山恵津子	
8	開拓者の決斗	街道強盗
9	赤穂義士	恋風道中
10	白蛇小町	
11	蜘蛛男	
12	浪人八景	
13	歌祭り三人旅	
14	法律なき街	
15	東京上空三十秒	
16	十三の魔王	朝晴れ鷹
17	長い鼻	
18	神秘の国インド	

朱槍判官
俺にまかせろ
駅前旅館
大笑い夫婦
四季の愛欲
俺は情婦を
櫛山節考
若い広場
新日本道中
真珠湾入港
霧の中の男
俺は夜を憎む